

---

# **神様的好奇心は人も殺す**

all

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神様的好奇心は人をも殺す

### 【NZコード】

N8263Y

### 【作者名】

a11

### 【あらすじ】

神様的好奇心によつて殺されたも同然の高校2年生の神坂望。責任を感じた神は望を異世界に転生させた。

そう望が四六時中していいた「妄想」を現実にできる世界に。  
(タイトル募集中)

## プロローグ -異世界への転生-（前書き）

始めまして、小説始めました。

このような執筆作業は初めてなので誤字や日本語としておかしい部分が多くあるやもしれませんが生暖かい日で流すように読んでいただければ幸いです。

## プロローグ -異世界への転生-

彼、かみさかのそみ神坂望はいつものように歩道を歩き交差点で止まり、信号が青になつたらまた歩き出しつゝ学校へ向かつ。

朝の7時半。朝日を体に浴びながらいつもの通り同じ道を歩きいつものように学校につくはずだった。

事は学校の裏にある信号のない小さな交差点で起つた。

「それ」まるで十字路を渡る望が見えていないかのようなスピードでこじりて突っ込んだ。

横によけでは間に合わないと「判断」した望は四六時中やつていた妄想どおりに体を動かす。

ボンネットに手を付き、体を浮かせ、背中に背負つていたカバンをフロントガラスに打ち付けるようにしてダメージを殺す。

（妄想成功！）  
ガツという音が響き、ボンネットの上に体を預け　　「それ」がスピードを落とした。

「それ」いきなりブレーキが効いたかのよしスピーディーが落ちた。慣性の法則により打ち出され大通りにてします。

次の瞬間、トラクションの音が鳴り響きその中に鈍い音が混じつていた…。

これが神坂望が異世界に転生することとなつた世界で最後の出来事である。

この世界の神様はあまり人間に手を出すことはなかつた。

というよりもともと興味があんまりなかつた。

しかし世界に常識があつて非常識があるのなら、しんせかい神世界でも非常識と呼ばれる神はあるものである。

そしてその神の世界での非常識と呼ばれる神は望の妄想を知り、面白がり、試したのだ。

人間とはどこまで「準備してある物事」に対処できるのかと。

つまり、望がいつも通学路でやつている「交通事故の対処法」という現実味のある妄想を現実に引き起こしたのだ。

運転手から望の姿が見えなかつたのは神のいたずらであり、それが結果一人の人間が逝つた。

神は責任を感じた。神のいたずらは一人の人間の、いやその周りの人間のも含めて全員の未来を狂わせたのだ。

家族友人はもちろんのこと、クラスメイトや担任の先生等は十分に周りの人間に該当するだろう。

望は転生者に、そして神は祈った。

そしてその神は世界に手出しすることを自ら禁じそれ以降世界をのぞこうともしなかった。

その神が上位神によつて「天罰」を受けたのはどうでもよく、知らなくてもいい現実。神世界

重要なのはこれにより望という転生者が生まれ、異世界で生きていくことになったということ。

そして、望は異世界で一度目の人生を生きるということである。

神がその異世界での生活を見守っていたのも彼にとつては知らない、知らなくていい現実。

## プロローグ -異世界への転生-（後書き）

転生物を多く読み流されるように書き始めてしまいました。  
投稿は不定期です。

## 神坂望改めエリック・シルフィールド三歳（前書き）

異世界は基本、絶対基準が私の妄想であるためこの筆者が生きている世界と発展の仕方が違うのは「了承ください」。

つまり、世界と異世界では思考の仕方が違うため基本となる常識が異なっています。

極端な例にするなら「人間と精霊では考え方が違う」みたいなものと同じです。

攻撃方法、つまり世界<sup>現実</sup>で「妄想」した魔法での戦い方と異世界の魔法での戦い方は違う。

さらには食生活で食べ物を腐らせる（醱酵）ということを考え付かなくてもなんら不思議ではないということです。

結論として、この小説<sup>もじき</sup>の異世界の人間は「こちらの常識では計れない」ということです。

さらに言うなら登場人物は人間ではない、もしくは人間に似た動物と考えていただいても結構です。

なのでこのことを踏まえてこのページでの画面スクロールをお願いします。

それでは転生というアドバンテージを持つた精神年齢高校生から始まる「妄想が日常」の神坂望の日常をお楽しみください。

## 神坂望改めエリック・シルフィールド三歳

転生者

転生の言葉の意味としては、前世の知識を持つたままもう一度人に生まれること。これには動物を含めて転生する説もある。

ここでは、転生者として人間に生まれることを指すことにする。

そして、転生者はそれだけでアドバンテージになることが多い。

転生先が異世界であつたり、いま現在の世代より古ければ古いほど技術や人の精神や考え方が発展していないためである。

未来に生まれたつてその未来の人たちと常識が違うのだから新しい発見が可能かもしれない。

もう一つ、転生者にとって決定的なアドバンテージがある。

なにせ生命が生まれた瞬間から自我の確立ができるのだから…。

三歳になつた。

昨日誕生日だった。

特に何をするわけでもなくただ生きている。

要するに退屈なのだ。

いや少し違うが、興味をそそるものがないのだ。

いやこれも少し違う。

興味あるものに触らせてもられないのだ。……うんじつくりきた。

毎日自分の部屋から外を見るだけ。

自分の家族が住んでいるところはたぶん高級住宅地。

家に面している通路は歩いている人たちは少なく逆に馬車とかが多  
かった。

大通りが少し見える。人とか露天とか、沢山いて沢山あつた。

人ごみは前世では嫌いだったけど今じゃ地下鉄の混み具合が懐かし  
い。

うん、暇だ。

成熟したとはいえない、未熟な精神だがこれは常人だと発狂レベルですよ。

目の前に！体の中に！「魔法」や「魔力」と呼ばれる未知なる力が眠っているといふのになーんで我慢せんなならんのか！

自分は生まれる前から意識はあった。今でも記憶はある。体の中に氣味の悪い力が眠つてたのにも気づいた。

このことから自分に何らかの力があり、異世界に転生したのでは？と仮説を立てた。結果その通りだつたわけだが…。

まあ、その力く魔力おかけが生まれるまではまるで油の浮いた砂糖たつぷりサイダーのプールに入つてゐるかのような気持ち悪さだつた。

その上、体は思うように動かないしただじつとしてるだけ。

いつ出産されるかもわからない、そんな状態でずっと我慢して  
いた私。

あれは地獄だ…。いや地獄だつた…か。

毎回地獄を思い出してどうにかこの退屈と比較して「まだましだ」と思いながらも、さすがに限界だ。

その出来事が誕生日パーティーだ。  
きうかけ

誕生日パーティーを両親が親戚や貴族を呼び祝つてくれたのだが、これがこれがまたまた面倒だつた。

なんで三歳児が貴族の面々に挨拶回りせにゃならんのだ!ともひつ内心何度も叫んだことか…。

自分の子供を何かしらの分野で認めてくれているならセヒト魔法教えてくれよ…。

周りに同年代の子供はいないし完全大人だけの世界。

どうやら貴族たちへのサプライズみたいなものだつたらしい。

いや、こいはどう考へたつて子供の成長を促すために同年代の子供に会わせるべきだろ?…。

言葉とかさ、まだぜんぜん完璧に覚えているわけでもないし発音も舌足らずだし、会話にならなきや覚えらんないよ…。

どうか違つといふ抜けていてずれているそんな自分の父親ダニエル・シルフィールドと母親サラ・シルフィールド。

両方結構めんどくさい性格をしている。それでいて結構な貴族である。

が、なんというか人を驚かせる事に人生かけているような人だ。善人 悪人

相手は本当に誰でもいい。騎士団長でも相手にしたことのあるのだ。

時たまにある人物からサプライズの依頼が来ることもあるらしい。本業あるそかにしてない?これも本業のうす?

自分が巻き込まれなければドッキリカメラ映像を見てくるよつたものだつた。

しかし、巻き込まれるとタチが悪いじゃすまない。

とこりか三歳児をサプライズの相手にするとこりその精神が知りた  
いよ。

そらひこ、元いた世界世界に魔法があつて、いわゆる世界異世界では魔法がある。

この違いだけでドッキリの部分がどれだけ前の世界と違うかわかつ  
てくれると思ひ。

ああ、自分も早く魔法を使いたい…。

三歳になつたんだから許してくれないだらうか？

あ、女から男になりました。

あーもう用ものとか考えなくていいから楽！

もう下のことなんて特に気にしなくなりましたともー。

ええー、仮にしなくなつたともー。  
もつ無意識でいいよ。

## 神坂望改めエリック・シルフィールド三歳（後書き）

名前が思いつかない。

名前だけに15分かかってしまいました…難しい。

精神は肉体の影響を受けると某吸血鬼Kさんが言っていたのを思い出しました。

言動は肉体に影響されていきます。でもやっぱ根っここの部分は女性で。

いけたらしいなあ。

台詞の掛け合いとかもぶつけ本番。  
読めるようなもの書けたらいいなあ。  
妄想とかはもうちょっと後で。

魔法、魔力の勉強法？（前書き）

サブタイトルも難しい。

## 魔法、魔力の勉強法？

### 基本と応用

物事の「基本」といひのは土台部分であり、その土台を固めていく必要がある。

建築物で例にするなら地中に埋めた基礎部分だひつ。

応用は基本の上に積み上げる「モノ」であり、建築物の見た目部分にあたる。

なら建造物の間取り等の中身は？

経験である。

「親父！おれにまほうをおしえてくれ！」

「・・・あー、魔力の使い方なら教えてやる！」

「それってなにかちがいがあるの？」

「さすがにまだわからんよな」

わかっていますけどね。

うん三歳なんだから」わぐらがたぶんベスト。

違いが分かつたらさすがにおかしいだろ？」

自分は両親が自分を転生者ということを知らないままでいてほしい。

特に理由はないし本当の息子として生まれてくる魂を押しのけた自分に罪悪感を感じたことはないといつたら嘘になるけど面倒事なんて極力避けたい。

破天荒な両親のことだからたぶんないとは思つけど放りだされる可能性が無い訳ではない。

ん？日本語が微妙におかしい・・・か？

日本語の話し相手がいないからいつも自問自答しかしていない。

独り言が最近寂しくなってきた。

ま、  
それはそれとして  
閑話休題

魔法に興味を持ち出すのは三歳からが多いらしい。

好奇心が高い時期だからだらうか。

いやーどうでもいいいやーとつあえずテンション上がってキター！

「ん、よし。それじゃ始めよう。といつてもどうしたもんか。」

「え？」

「…まあいいか。とりあえず俺の魔力を流し込んでみるからそれを外にはじき出しちゃう」

「やとこだせばいいの? わかつた。」

そうこうと親父は手をつかんできて いきなり寒気がしてきた。  
自分が別の何か、自分じゃないものに侵されてこくよくなそんな感覚。

自分が自分じゃなくなる いやだ!

その時、バチーン! と空気が震えて親父が数歩よろけた。

親父が青い顔で口に向いてる。

あーやばいかも? なんかやつちやつた?

「…よ、よし。基本ができるなすござれ。」

いや、今の基本が出来てたつて顔じゃなかつたよ?

今は仮面がぶつてるのか平常に見えるけどあの顔は…おかしこよ。  
ボーカーフェイス

「うさ。ちよつと父ちゃんは仕事があるからなまた後でな」

呼び止めるまもなく部屋を出て行った。

うん、逃げられた。

いや、逃げてくれてよかつたかも。考えをちゅうと纏めよ！」

魔力の操作方法の基本は出来ている。終了。…じゃなくて魔力量が多かつたのか魔力の使い方が上手だったとかそんなところだらうか。

前者はどうやって調べればいいのかわからん。自分しか基準がないからなあ。

後者は後者でまたわからん。どれだけ滑らかに動かせるとかそんな感じなのかな？

毎日やること本當になくて魔力に慣れる」とぱつかりやつてたからそれが原因かな？

あとは子供ながらの成長力。高校一年生 大人の精神と子供の本能力なんじやそりや で成長が著しいとかか？

まあなんにしても、魔法に対して転生者としてのアドバンテージが出てたところか。

転生者はやっぱリチートに入る域にあると思つんだ。うん。

三年間魔法の制御だけしかやつてないんだから当然つちや当然なのかも。

ほかにもこの世界、技術発展していないしお金に困るとはないとは思うけど、技術見せ付けて必要以上に田立つなんひとつ、したくないしなあ。

絶対妄想力豊かなどいじやの馬鹿共に改良されてしまつと思ひ。

んで戦争と。自分の発想が戦争に使われるなんてそんな後味悪いことしたくないしなあ。

自衛のために使ひやりますナジね〜。

んじゃ親父どのの反応を待つとしますか。

…いまさら不安になつてきやつた。

氣づくわけないこと思つたださだなじやつぱつ少し不<sup>転生</sup>なるなあ。

## 魔法、魔力の勉強法？（後書き）

主人公の特別は基本、あの世界での妄想とこの異世界に転生したことです。

もちろん知識もですが。

基本の上には応用もありますけどね？

投稿時間は何時にしたらいいんでしょうか。  
とりあえずまた19時にしておきました。

投稿は一週間に一回出来れば良いほうだと思っています。  
それでは次話で

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8263y/>

神様的好奇心は人をも殺す

2011年11月27日19時56分発行